



第2639回 例会

2016. 5. 19

会長あいさつ



関口 和夫会長

週報 No.2078  
発行 2016年 6月2日  
会長 関口 和夫  
幹事 藤村 作  
副会長 久保田 勲  
副幹事 樋口 雅之  
編集責任者・  
クラブ広報委員長 長沼 大策

皆さんこんばんは。本日も、ご出席ありがとうございます。今日は、例会場が東武バケットのホテル館となっております。予約の都合で会場変更になりましたことお詫びいたします。

4月の会長挨拶で、パチマ文書のことをお話ししました。今もう一つの問題がパナマから発せられています。パナマにとって極めて有害な病気で「パナマ病」又は「萎凋（いちよう）病」と言う土壌菌が急速に拡散して、アジア地域オーストラリアの一部、アフリカ大陸、中東へと広がっています。パナマ病は1960年代に最も人気があったグロスミッシュル種のパナマを壊滅させました。このかつて人気があった種類のパナマを壊滅させた病気が再び世界の生産地に広がりパナマの輸出に大きく依存する中南米を脅かす事態になっています。中米のコスタリカで開催される予定であった国際パナマ会議は、直前になって北米のマイアミに変更されました。出席者の靴に付いた汚染土から、中南米に病気が広がる恐れがあるからということです。国連食糧農業機関（FAO）は、先月パナマについて「世界で最も破壊的なパナマの病気に1つ」と指摘しています。この病気に対抗するために、360億ドル（約4兆円）規模の予算が必要である強調しています。

皆さんも子供の頃食べたバナナがとても美味しかったことを覚えているとおもいますが実際流通しているバナナは昔のものとは変わっています。現在日本で最も流通しているバナナは、キャベンディッシュと言う品種です。世界で生産されるバナナのほぼ半分を占めています。日本では主にフィリピンから輸入され、太さを保ちつつ長さのある大型のパナマです。パナマ病により病気に強いと強調されたキャベンディッシュは、1960年代にグロスミッシュルに取って代わりました。しかし新型パナマ病により、アジアの一部の生産が崩壊しています。バナナの研究者や生産者は現在、キャベンディッシュ種に代わる新種のバナナの開発に力を入れています。また、遺伝子組み換えによる、新しい品種のパナマも研究されています。中南米のパナマ病が広がれば、世界のバナナは、絶滅の危機にあることを知って頂きたいと思えます。スーパーでバナナの生産地がどこか、ご覧になって下さい。ハワイのヒロロータリークラブにいる、私の友人はパイパイの生産をしています。パイパイも、病気の影響があるため、現在遺伝子組み換えのパ

- 6月9日 卓話 大塚崇行会員
- 6月16日 クラブフォーラム (時間変更)
- 6月23日 卓話 深澤圭司会員
- 6月30日 最終例会 (時間・例会場変更)

Rotary AGEO ROTARY CLUB

イヤを生産しています。農業と今後の、食生活のあり方について考えさせられました。

以上をもちまして、会長挨拶とさせていただきます。

幹事報告

藤村 作幹事

◆次年度の広報・会員増強部門合同セミナーが7月2日(土)午後1時から越谷コミュニティセンターで開催されますので次年度の広報委員、会員増強委員の方は出席をお願いいたします。

◆ロータリー野球大会に参加する皆さんへ、全国ロータリークラブ野球大会委員から手紙で、熊本震災への義援金のお願いが来ています。上尾クラブとしては1人1,000円で義援金を出すと決まっていますが、それとは別で、各クラブ10万円とのことで、検討させていただきたいと思えます。

◆本日例会後、野球部のユニフォーム製作会社さんが来てサンプルを見せてくださることになっていますのでよろしく願います。

結婚・誕生祝い

お誕生日 おめでとうございます!

深澤 圭司会員

ロータリークラブに入会して11年、5月9日に50歳を迎えました。これから長生きをして地域のために貢献していきたいと思えます。ありがとうございます。



結婚記念日 おめでとうございます!

武重 秀雄会員

私が結婚したのは前の東京オリンピックの前の年です。家族は子供が4人います。長女はイタリアに住んでいます。長男は跡取りで現在は大宮で勤務しています。

次女は浦和に住んでいます。三女は旦那の転勤で広島に行っちゃいました。なので我が家には長男が夜帰ってくるくらいです。私が結婚した頃、医局にいると教授を仲人にしないといけない時代でした。子供たちはみんな元気で、孫は8人います。孫が集まると賑やかなお正月になります。金婚式は過ぎましたが、お祝いがなかったのではないかとされているので、何か形をつくらなければならぬと思えます。これからも皆さん、よろしく願います。ありがとうございます。

齋藤 博重会員

結婚祝いをいただきありがとうございました。私は5月5日ちょうど25年になりました。子供は、長女が就職し、長男が大学1年で親の手を離れ、最近では私が家には夫婦2人の生活になり、嫁は西口のジムに毎日通っているような状態です。結婚25年ということで嫁の気合が入っていて、どこか連れていけということで飛行機は苦手ですがモルディブに行くかなと計画しています。これからは2人仲良く過ごしていきたいと思えます。ありがとうございました。



ソウル国際大会の説明

古賀 昇 会員

皆さんこんばんは。国際大会が近づいてきました。当初グランドアンバサダーというホテルを予定していましたが、大会会場から少し場所が遠いので、明洞・南大門前のティマークホテルに変更させていただきました。飛行機は変更ありません。会長幹事から空港までの車の手配を促され、人数を確認させていただいて車をご用意させていただきます。また2日目のオプションプランは中華島で、有名な生のカニ料理・鍋料理をいただきたいと思えます。どうぞよろしくお願いいたします。



Rotary AGEO ROTARY CLUB

例会主題

次年度計画発表

久保田 勲 会長エレクト

次年度2016-2017年度の会長を仰せつかることになりました久保田勲です。よろしく願います。次年度の地区は組織が少し変わり、学友部門委員会という部門が1つ増え、8つの部門委員会になります。さて次年度RI会長からクラブを運営していくにあたって効果的なロータリークラブを目指していただきたいという話がありました。その中で効果的なロータリークラブの条件について、1つは会員基盤の維持をすること、要するに会員を増強していこうということです。新会員を増やし、年齢層のバランスを考えたクラブの会員構成が必要だと思います。

2番目は地元社会と海外社会のニーズに正確に取り組む奉仕プロジェクトを実行していくことです。要するに社会奉仕と国際奉仕を積極的に取り組みましようということです。社会奉仕では地域のニーズを把握したうえで社会奉仕プログラムを実践して、国際奉仕は奉仕を求めている地域に奉仕ましようということです。

3番目は財団の件で、プログラムへの参加と資金寄付の両面を見据えたロータリー財団を支援するというです。ご存じのように次年度はロータリー財団が100周年を迎えます。そのことも皆様のご協力を得たいと思えますのでよろしく願います。特に今年度の関口会長がよく仰られているポリオ撲滅については、残るのはパキスタンとアフガニスタンの2カ国になっています。ジョン F. ジャーム RI 会長エレクトは、「次年度、地球からポリオをなくすことができるかもしれない」ということを述べています。ポリオは2018年に0にしていこうという目標がありますが、その前に2017年にひよっとしたら達成するかもしれないという可能性が充分にあると仰っています。ぜひ財団に対しても皆さんのご協力を得て実現できたらと思っています。

4番目はクラブのレベルを超えてロータリーで奉仕できる指導者を育成するというです。これは地域に出身していく人を育成していくことです。私たちのクラブから優秀な方を育てて地区、そして国際ロータリーで活躍できるように輩出していただきたいということです。ぜひ地区に出身していただければと思えます。

またジョン F. ジャーム RI 会長エレクトは「ポール・ハリスがこのように述べています。『個人の努力は個々のニーズに向けることができます。しかし、大勢の努力の結果は、人類の奉仕に捧げなければなりません。結果された努力に限界というものはありません』。我々ロータリアンが結果すればすべてのことが達成可能であるということ、ポール・ハリスが述べているのだと思えます。このようなことを踏まえ次年度テーマについて進めていきたいと思えます。また「人類に奉仕するロータリー」という RI テーマについて浅水ガバナーエレクトが、人類に奉仕するとは非常にシンプルで、ロータリーの根本をつく言葉になっています。ジョン F. ジャーム RI 会長エレクトは幸福論の話をしていて、ギリシア・ローマの昔から人間にとっての幸せは何だろう、それは永遠に考えている問題ですが、多くの著名な哲学者や宗教家が同じことを言っていて、人間とは本質的に他人に喜ばれる・他人に影響を与える・他人の役にたてる、これが最大の目標・幸せではないかということを指摘しています。いくらお金があっても、人に振り向きもされず友人もいない、そんな人生はあまり価値がないと思えますが、根本的に幸福論から考えたテーマが「人類に奉仕するロータリー」ということです。人のために役にたつ、言いかえれば奉仕の最善の方法ではないかと RI 会長エレクトは問いつけているのではないかとと思えます。

いろいろな奉仕団体がありますが、その中でロータリーが優れている点というのがいくつかあります。1つは地域や世界とのネットワークをもっている、地域に根ざした情報が得られるということとロータリアン同士で世界的な規模の情報交換ができるという強みを持つていることです。2つめは我々職業人、ロータリアン自身もさまざまなスキル・専門知識を持っていることです。その専門知識を奉仕活動に使えるのがロータリーの強みです。3つめは、世界中の人々の力を結集できる組織ということ。ロータリーが111年かけて作り上げた大きな成果だと思えます。個々の人間の力には限界がありますが、結集された力には限界がないのだと思えます。世界中のロータリークラブの奉仕活動の成果を、自分のものとしてとることができる、しかもそれがプライドがもてる、成果を共有できるということが言えると思えます。アフリカの奥地で困っている人を助けているロータリアンもいると思えます。またポリオワクチンを命がけで接種しているロータリアンもいると思えます。それはみな我々の仲間です。仲間の感動を共有し、それがいつまでもできま。だからいつも、もって何かがやれるのではないかと

う気持ちでいられます。ロータリー財団は、1917年6月18日、ジョージア州アトランタ第8回ロータリー大会で当時のアーチ・フランク会長が「世界でよいことをするために基金を作ることがきつて適切だと思われる」というスピーチをしたことがきっかけで始まりました。次年度はちょうど100周年を迎える節目年になっています。親睦から奉仕へそして奉仕の質を高めある協力者を含め大きな成果をあげていく、これが100年かかってまさに大きな成果を生み出そうとしている年だと思えます。その1つはポリオです。ポリオ撲滅まで射程距離に入っています。次年度は財団100周年でさまざまなイベントが世界各地で開催されると思えますが、それは世の中にロータリーを知ってもらうよい機会だと思えます。RI 会長エレクトは、財団100周年を広めるにあたり協力してくれる企業・団体を探しましよう、しかしその仲間というのは同じ立場をもった人を選びましようとしています。同じ立場と言うのは人類のために奉仕したいという気持ちをもった企業・団体で、積極的に手を結んでいましようということです。我々はポリオ撲滅ではビル&メリンダ ゲイツ財団と手をつなぎ大きな力を発揮したので、その方向性をもっと進めようとしているんだと思えます。

またこのポリオ撲滅をした前提の話ですが、その後はどうしましようかと皆さんで考えておきましようという話がありました。ポリオ撲滅を成し遂げた時に備えてクラブの体制をきちんと作りあげてほしいと仰っていました。このクラブの体制では4つほど挙げています。1つは「奉仕に積極的に取り組む体制をつくらう」。これは皆さんが日ごろから実践していると思えます。2つ目は「新会員をあたたく迎えられるような体制をつくっておきましよう」。入会後もきちんとサポートすることが大事なことだと思えます。3つ目は「活気があるたとえば例会の出席、奉仕活動への会員の具各」だと思えます。会員家族がどれだけロータリーに対して理解を示し、親睦例会や夜間例会に積極的に参加してくれるかどうかというは考えていかなければいけない問題でしょう。4つ目は「四つのテストを真に実践しているようなクラブになっ

てほしい」ということです。このようなポイントを達成し素晴らしいクラブを作りあげ、ポリオの撲滅後に備えると言っていますので、これらを進めていきたいと思えます。

これは RI について述べましたが、地区の運営方針は「楽しいロータリークラブを作り上げよう」となっています。「楽しいロータリークラブ」とはムードを良くしていつでも会員が増えたいような魅力のあるクラブにましようということです。ベテランも新会員も垣根なくこれからロータリーをどうしていきたいかということで、次年度、1つめは「夢をもってロータリーを語れるようなクラブができていくこと」をお願いしたいと仰っていました。2つめはインターネットでは情報を受け取るだけでなく、我々もどんどん新しいクラブの情報にロータリークラブ・セントラルに入れて RI に伝達していきましようということです。3つめはロータリー財団設立100周年を記念した行事、寄付増進を計画しましようということです。4つめは、価値観を共有できる新しい会員を入会させながら、RI 会長賞を目指し、会員増強では退会防止に努め維持率100パーセントを達成しましようということです。5つめは地元メディアの協力を得て、ロータリーの存在、ロータリークラブの奉仕活動を地域の方にアピールしましようということです。6つめは1人のロータリアンだけではなく、仲間を増やし、公共団体、企業、NPO 法人などとの連携を検討しましようということです。

地区方針に則りながら、楽しいクラブづくりをしてはじめて奉仕活動ができるのではなからうかと私は思っていますのでまずはクラブの会員同士が仲良くできるのがいいかなと思えます。これらを含めて委員会方針を決めたいと思えます。次年度の卓話では、歴史と伝統のあるクラブでバスト会長が大勢いっしやるので、長年にわたって築きあげたご自身の歴史と経験値をご披露いただき、若い世代の会員になにか刺激が与えられればと思えます。ご自身がロータリーを振り返る1つの機会にもなると思えますので、バスト会長の方々はどうぞよろしく願います。社会奉仕、国際奉仕につきましても皆様方のご協力をいただきたいと思えますのでどうぞよろしく願います。

う気持ちでいられます。ロータリー財団は、1917年6月18日、ジョージア州アトランタ第8回ロータリー大会で当時のアーチ・フランク会長が「世界でよいことをするために基金を作ることがきつて適切だと思われる」というスピーチをしたことがきっかけで始まりました。次年度はちょうど100周年を迎える節目年になっています。親睦から奉仕へそして奉仕の質を高めある協力者を含め大きな成果をあげていく、これが100年かかってまさに大きな成果を生み出そうとしている年だと思えます。その1つはポリオです。ポリオ撲滅まで射程距離に入っています。次年度は財団100周年でさまざまなイベントが世界各地で開催されると思えますが、それは世の中にロータリーを知ってもらうよい機会だと思えます。RI 会長エレクトは、財団100周年を広めるにあたり協力してくれる企業・団体を探しましよう、しかしその仲間というのは同じ立場をもった人を選びましようとしています。同じ立場と言うのは人類のために奉仕したいという気持ちをもった企業・団体で、積極的に手を結んでいましようということです。我々はポリオ撲滅ではビル&メリンダ ゲイツ財団と手をつなぎ大きな力を発揮したので、その方向性をもっと進めようとしているんだと思えます。

またこのポリオ撲滅をした前提の話ですが、その後はどうしましようかと皆さんで考えておきましようという話がありました。ポリオ撲滅を成し遂げた時に備えてクラブの体制をきちんと作りあげてほしいと仰っていました。このクラブの体制では4つほど挙げています。1つは「奉仕に積極的に取り組む体制をつくらう」。これは皆さんが日ごろから実践していると思えます。2つ目は「新会員をあたたく迎えられるような体制をつくっておきましよう」。入会後もきちんとサポートすることが大事なことだと思えます。3つ目は「活気があるたとえば例会の出席、奉仕活動への会員の具各」だと思えます。会員家族がどれだけロータリーに対して理解を示し、親睦例会や夜間例会に積極的に参加してくれるかどうかというは考えていかなければいけない問題でしょう。4つ目は「四つのテストを真に実践しているようなクラブになっ

てほしい」ということです。このようなポイントを達成し素晴らしいクラブを作りあげ、ポリオの撲滅後に備えると言っていますので、これらを進めていきたいと思えます。

これは RI について述べましたが、地区の運営方針は「楽しいロータリークラブを作り上げよう」となっています。「楽しいロータリークラブ」とはムードを良くしていつでも会員が増えたいような魅力のあるクラブにましようということです。ベテランも新会員も垣根なくこれからロータリーをどうしていきたいかということで、次年度、1つめは「夢をもってロータリーを語れるようなクラブができていくこと」をお願いしたいと仰っていました。2つめはインターネットでは情報を受け取るだけでなく、我々もどんどん新しいクラブの情報にロータリークラブ・セントラルに入れて RI に伝達していきましようということです。3つめはロータリー財団設立100周年を記念した行事、寄付増進を計画しましようということです。4つめは、価値観を共有できる新しい会員を入会させながら、RI 会長賞を目指し、会員増強では退会防止に努め維持率100パーセントを達成しましようということです。5つめは地元メディアの協力を得て、ロータリーの存在、ロータリークラブの奉仕活動を地域の方にアピールしましようということです。6つめは1人のロータリアンだけではなく、仲間を増やし、公共団体、企業、NPO 法人などとの連携を検討しましようということです。

地区方針に則りながら、楽しいクラブづくりをしてはじめて奉仕活動ができるのではなからうかと私は思っていますのでまずはクラブの会員同士が仲良くできるのがいいかなと思えます。これらを含めて委員会方針を決めたいと思えます。次年度の卓話では、歴史と伝統のあるクラブでバスト会長が大勢いっしやるので、長年にわたって築きあげたご自身の歴史と経験値をご披露いただき、若い世代の会員になにか刺激が与えられればと思えます。ご自身がロータリーを振り返る1つの機会にもなると思えますので、バスト会長の方々はどうぞよろしく願います。社会奉仕、国際奉仕につきましても皆様方のご協力をいただきたいと思えますのでどうぞよろしく願います。

う気持ちでいられます。ロータリー財団は、1917年6月18日、ジョージア州アトランタ第8回ロータリー大会で当時のアーチ・フランク会長が「世界でよいことをするために基金を作ることがきつて適切だと思われる」というスピーチをしたことがきっかけで始まりました。次年度はちょうど100周年を迎える節目年になっています。親睦から奉仕へそして奉仕の質を高めある協力者を含め大きな成果をあげていく、これが100年かかってまさに大きな成果を生み出そうとしている年だと思えます。その1つはポリオです。ポリオ撲滅まで射程距離に入っています。次年度は財団100周年でさまざまなイベントが世界各地で開催されると思えますが、それは世の中にロータリーを知ってもらうよい機会だと思えます。RI 会長エレクトは、財団100周年を広めるにあたり協力してくれる企業・団体を探しましよう、しかしその仲間というのは同じ立場をもった人を選びましようとしています。同じ立場と言うのは人類のために奉仕したいという気持ちをもった企業・団体で、積極的に手を結んでいましようということです。我々はポリオ撲滅ではビル&メリンダ ゲイツ財団と手をつなぎ大きな力を発揮したので、その方向性をもっと進めようとしているんだと思えます。

またこのポリオ撲滅をした前提の話ですが、その後はどうしましようかと皆さんで考えておきましようという話がありました。ポリオ撲滅を成し遂げた時に備えてクラブの体制をきちんと作りあげてほしいと仰っていました。このクラブの体制では4つほど挙げています。1つは「奉仕に積極的に取り組む体制をつくらう」。これは皆さんが日ごろから実践していると思えます。2つ目は「新会員をあたたく迎えられるような体制をつくっておきましよう」。入会後もきちんとサポートすることが大事なことだと思えます。3つ目は「活気があるたとえば例会の出席、奉仕活動への会員の具各」だと思えます。会員家族がどれだけロータリーに対して理解を示し、親睦例会や夜間例会に積極的に参加してくれるかどうかというは考えていかなければいけない問題でしょう。4つ目は「四つのテストを真に実践しているようなクラブになっ

てほしい」ということです。このようなポイントを達成し素晴らしいクラブを作りあげ、ポリオの撲滅後に備えると言っていますので、これらを進めていきたいと思えます。

これは RI について述べましたが、地区の運営方針は「楽しいロータリークラブを作り上げよう」となっています。「楽しいロータリークラブ」とはムードを良くしていつでも会員が増えたいような魅力のあるクラブにましようということです。ベテランも新会員も垣根なくこれからロータリーをどうしていきたいかということで、次年度、1つめは「夢をもってロータリーを語れるようなクラブができていくこと」をお願いしたいと仰っていました。2つめはインターネットでは情報を受け取るだけでなく、我々もどんどん新しいクラブの情報にロータリークラブ・セントラルに入れて RI に伝達していきましようということです。3つめはロータリー財団設立100周年を記念した行事、寄付増進を計画しましようということです。4つめは、価値観を共有できる新しい会員を入会させながら、RI 会長賞を目指し、会員増強では退会防止に努め維持率100パーセントを達成しましようということです。5つめは地元メディアの協力を得て、ロータリーの存在、ロータリークラブの奉仕活動を地域の方にアピールしましようということです。6つめは1人のロータリアンだけではなく、仲間を増やし、公共団体、企業、NPO 法人などとの連携を検討しましようということです。

地区方針に則りながら、楽しいクラブづくりをしてはじめて奉仕活動ができるのではなからうかと私は思っていますのでまずはクラブの会員同士が仲良くできるのがいいかなと思えます。これらを含めて委員会方針を決めたいと思えます。次年度の卓話では、歴史と伝統のあるクラブでバスト会長が大勢いっしやるので、長年にわたって築きあげたご自身の歴史と経験値をご披露いただき、若い世代の会員になにか刺激が与えられればと思えます。ご自身がロータリーを振り返る1つの機会にもなると思えますので、バスト会長の方々はどうぞよろしく願います。社会奉仕、国際奉仕につきましても皆様方のご協力をいただきたいと思えますのでどうぞよろしく願います。

う気持ちでいられます。ロータリー財団は、1917年6月18日、ジョージア州アトランタ第8回ロータリー大会で当時のアーチ・フランク会長が「世界でよいことをするために基金を作ることがきつて適切だと思われる」というスピーチをしたことがきっかけで始まりました。次年度はちょうど100周年を迎える節目年になっています。親睦から奉仕へそして奉仕の質を高めある協力者を含め大きな成果をあげていく、これが100年かかってまさに大きな成果を生み出そうとしている年だと思えます。その1つはポリオです。ポリオ撲滅まで射程距離に入っています。次年度は財団100周年でさまざまなイベントが世界各地で開催されると思えますが、それは世の中にロータリーを知ってもらうよい機会だと思えます。RI 会長エレクトは、財団100周年を広めるにあたり協力してくれる企業・団体を探しましよう、しかしその仲間というのは同じ立場をもった人を選びましようとしています。同じ立場と言うのは人類のために奉仕したいという気持ちをもった企業・団体で、積極的に手を結んでいましようということです。我々はポリオ撲滅ではビル&メリンダ ゲイツ財団と手をつなぎ大きな力を発揮したので、その方向性をもっと進めようとしているんだと思えます。

またこのポリオ撲滅をした前提の話ですが、その後はどうしましようかと皆さんで考えておきましようという話がありました。ポリオ撲滅を成し遂げた時に備えてクラブの体制をきちんと作りあげてほしいと仰っていました。このクラブの体制では4つほど挙げています。1つは「奉仕に積極的に取り組む体制をつくらう」。これは皆さんが日ごろから実践していると思えます。2つ目は「新会員をあたたく迎えられるような体制をつくっておきましよう」。入会後もきちんとサポートすることが大事なことだと思えます。3つ目は「活気があるたとえば例会の出席、奉仕活動への会員の具各」だと思えます。会員家族がどれだけロータリーに対して理解を示し、親睦例会や夜間例会に積極的に参加してくれるかどうかというは考えていかなければいけない問題でしょう。4つ目は「四つのテストを真に実践しているようなクラブになっ

てほしい」ということです。このようなポイントを達成し素晴らしいクラブを作りあげ、ポリオの撲滅後に備えると言っていますので、これらを進めていきたいと思えます。

これは RI について述べましたが、地区の運営方針は「楽しいロータリークラブを作り上げよう」となっています。「楽しいロータリークラブ」とはムードを良くしていつでも会員が増えたいような魅力のあるクラブにましようということです。ベテランも新会員も垣根なくこれからロータリーをどうしていきたいかということで、次年度、1つめは「夢をもってロータリーを語れるようなクラブができていくこと」をお願いしたいと仰っていました。2つめはインターネットでは情報を受け取るだけでなく、我々もどんどん新しいクラブの情報にロータリークラブ・セントラルに入れて RI に伝達していきましようということです。3つめはロータリー財団設立100周年を記念した行事、寄付増進を計画しましようということです。4つめは、価値観を共有できる新しい会員を入会させながら、RI 会長賞を目指し、会員増強では退会防止に努め維持率100パーセントを達成しましようということです。5つめは地元メディアの協力を得て、ロータリーの存在、ロータリークラブの奉仕活動を地域の方にアピールしましようということです。6つめは1人のロータリアンだけではなく、仲間を増やし、公共団体、企業、NPO 法人などとの連携を検討しましようということです。

地区方針に則りながら、楽しいクラブづくりをしてはじめて奉仕活動ができるのではなからうかと私は思っていますのでまずはクラブの会員同士が仲良くできるのがいいかなと思えます。これらを含めて委員会方針を決めたいと思えます。次年度の卓話では、歴史と伝統のあるクラブでバスト会長が大勢いっしやるので、長年にわたって築きあげたご自身の歴史と経験値をご披露いただき、若い世代の会員になにか刺激が与えられればと思えます。ご自身がロータリーを振り返る1つの機会にもなると思えますので、バスト会長の方々はどうぞよろしく願います。社会奉仕、国際奉仕につきましても皆様方のご協力をいただきたいと思えますのでどうぞよろしく願います。

う気持ちでいられます。ロータリー財団は、1917年6月18日、ジョージア州アトランタ第8回ロータリー大会で当時のアーチ・フランク会長が「世界でよいことをするために基金を作ることがきつて適切だと思われる」というスピーチをしたことがきっかけで始まりました。次年度はちょうど100周年を迎える節目年になっています。親睦から奉仕へそして奉仕の質を高めある協力者を含め大きな成果をあげていく、これが100年かかってまさに大きな成果を生み出そうとしている年だと思えます。その1つはポリオです。ポリオ撲滅まで射程距離に入っています。次年度は財団100周年でさまざまなイベントが世界各地で開催されると思えますが、それは世の中にロータリーを知ってもらうよい機会だと思えます。RI 会長エレクトは、財団100周年を広めるにあたり協力してくれる企業・団体を探しましよう、しかしその仲間というのは同じ立場をもった人を選びましようとしています。同じ立場と言うのは人類のために奉仕したいという気持ちをもった企業・団体で、積極的に手を結んでいましようということです。我々はポリオ撲滅ではビル&メリンダ ゲイツ財団と手をつなぎ大きな力を発揮したので、その方向性をもっと進めようとしているんだと思えます。

またこのポリオ撲滅をした前提の話ですが、その後はどうしましようかと皆さんで考えておきましようという話がありました。ポリオ撲滅を成し遂げた時に備えてクラブの体制をきちんと作りあげてほしいと仰っていました。このクラブの体制では4つほど挙げています。1つは「奉仕に積極的に取り組む体制をつくらう」。これは皆さんが日ごろから実践していると思えます。2つ目は「新会員をあたたく迎えられるような体制をつくっておきましよう」。入会後もきちんとサポートすることが大事なことだと思えます。3つ目は「活気があるたとえば例会の出席、奉仕活動への会員の具各」だと思えます。会員家族がどれだけロータリーに対して理解を示し、親睦例会や夜間例会に積極的に参加してくれるかどうかというは考えていかなければいけない問題でしょう。4つ目は「四つのテストを真に実践しているようなクラブになっ

てほしい」ということです。このようなポイントを達成し素晴らしいクラブを作りあげ、ポリオの撲滅後に備えると言っていますので、これらを進めていきたいと思えます。

これは RI について述べましたが、地区の運営方針は「楽しいロータリークラブを作り上げよう」となっています。「楽しいロータリークラブ」とはムードを良くしていつでも会員が増えたいような魅力のあるクラブにましようということです。ベテランも新会員も垣根なくこれからロータリーをどうしていきたいかということで、次年度、1つめは「夢をもってロータリーを語れるようなクラブができていくこと」をお願いしたいと仰っていました。2つめはインターネットでは情報を受け取るだけでなく、我々もどんどん新しいクラブの情報にロータリークラブ・セントラルに入れて RI に伝達していきましようということです。3つめはロータリー財団設立100周年を記念した行事、寄付増進を計画しましようということです。4つめは、価値観を共有できる新しい会員を入会させながら、RI 会長賞を目指し、会員増強では退会防止に努め維持率100パーセントを達成しましようということです。5つめは地元メディアの協力を得て、ロータリーの存在、ロータリークラブの奉仕活動を地域の方にアピールしましようということです。6つめは1人のロータリアンだけではなく、仲間を増やし、公共団体、企業、NPO 法人などとの連携を検討しましようということです。

地区方針に則りながら、楽しいクラブづくりをしてはじめて奉仕活動ができるのではなからうかと私は思っていますのでまずはクラブの会員同士が仲良くできるのがいいかなと思えます。これらを含めて委員会方針を決めたいと思えます。次年度の卓話では、歴史と伝統のあるクラブでバスト会長が大勢いっしやるので、長年にわたって築きあげたご自身の歴史と経験値をご披露いただき、若い世代の会員になにか刺激が与えられればと思えます。ご自身がロータリーを振り返る1つの機会にもなると思えますので、バスト会長の方々はどうぞよろしく願います。社会奉仕、国際奉仕につきましても皆様方のご協力をいただきたいと思えますのでどうぞよろしく願います。

う気持ちでいられます。ロータリー財団は、1917年6月18日、ジョージア州アトランタ第8回ロータリー大会で当時のアーチ・フランク会長が「世界でよいことをするために基金を作ることがきつて適切だと思われる」というスピーチをしたことがきっかけで始まりました。次年度はちょうど100周年を迎える節目年になっています。親睦から奉仕へそして奉仕の質を高めある協力者を含め大きな成果をあげていく、これが100年かかってまさに大きな成果を生み出そうとしている年だと思えます。その1つはポリオです。ポリオ撲滅まで射程距離に入っています。次年度は財団100周年でさまざまなイベントが世界各地で開催されると思えますが、それは世の中にロータリーを知ってもらうよい機会だと思えます。RI 会長エレクトは、財団100周年を広めるにあたり協力してくれる企業・団体を探しましよう、しかしその仲間というのは同じ立場をもった人を選びましようとしています。同じ立場と言うのは人類のために奉仕したいという気持ちをもった企業・団体で、積極的に手を結んでいましようということです。我々はポリオ撲滅ではビル&メリンダ ゲイツ財団と手をつなぎ大きな力を発揮したので、その方向性をもっと進めようとしているんだと思えます。

またこのポリオ撲滅をした前提の話ですが、その後はどうしましようかと皆さんで考えておきましようという話がありました。ポリオ撲滅を成し遂げた時に備えてクラブの体制をきちんと作りあげてほしいと仰っていました。このクラブの体制では4つほど挙げています。1つは「奉仕に積極的に取り組む体制をつくらう」。これは皆さんが日ごろから実践していると思えます。2つ目は「新会員をあたたく迎えられるような体制をつくっておきましよう」。入会後もきちんとサポートすることが大事なことだと思えます。3つ目は「活気があるたとえば例会の出席、奉仕活動への会員の具各」だと思えます。会員家族がどれだけロータリーに対して理解を示し、親睦例会や夜間例会に積極的に参加してくれるかどうかというは考えていかなければいけない問題でしょう。4つ目は「四つのテストを真に実践しているようなクラブになっ

てほしい」ということです。このようなポイントを達成し素晴らしいクラブを作りあげ、ポリオの撲滅後に備えると言っていますので、これらを進めていきたいと思えます。

これは RI について述べましたが、地区の運営方針は「楽しいロータリークラブを作り上げよう」となっています。「楽しいロータリークラブ」とはムードを良くしていつでも会員が増えたいような魅力のあるクラブにましようということです。ベテランも新会員も垣根なくこれからロータリーをどうしていきたいかということで、次年度、1つめは「夢をもってロータリーを語れるようなクラブができていくこと」をお願いしたいと仰っていました。2つめはインターネットでは情報を受け取るだけでなく、我々もどんどん新しいクラブの情報にロータリークラブ・セントラルに入れて RI に伝達していきましようということです。3つめはロータリー財団設立100周年を記念した行事、寄付増進を計画しましようということです。4つめは、価値観を共有できる新しい会員を入会させながら、RI 会長賞を目指し、会員増強では退会防止に努め維持率100パーセントを達成しましようということです。5つめは地元メディアの協力を得て、ロータリーの存在、ロータリークラブの奉仕活動を地域の方にアピールしましようということです。6つめは1人のロータリアンだけではなく、仲間を増やし、公共団体、企業、NPO 法人などとの連携を検討しましようということです。

地区方針に則りながら、楽しいクラブづくりをしてはじめて奉仕活動ができるのではなからうかと私は思っていますのでまずはクラブの会員同士が仲良くできるのがいいかなと思えます。これらを含めて委員会方針を決めたいと思えます。次年度の卓話では、歴史と伝統のあるクラブでバスト会長が大勢いっしやるので、長年にわたって築きあげたご自身の歴史と経験値をご披露いただき、若い世代の会員になにか刺激が与えられればと思えます。ご自身がロータリーを振り返る1つの機会にもなると思えますので、バスト会長の方々はどうぞよろしく願います。社会奉仕、国際奉仕につきましても皆様方のご協力をいただきたいと思えますのでどうぞよろしく願います。

う気持ちでいられます。ロータリー財団は、1917年6月18日、ジョージア州アトランタ第8回ロータリー大会で当時のアーチ・フランク会長が「世界でよいことをするために基金を作ることがきつて適切だと思われる」というスピーチをしたことがきっかけで始まりました。次年度はちょうど100周年を迎える節目年になっています。親睦から奉仕へそして奉仕の質を高めある協力者を含め大きな成果をあげていく、これが100年かかってまさに大きな成果を生み出そうとしている年だと思えます。その1つはポリオです。ポリオ撲滅まで射程距離に入っています。次年度は財団100周年でさまざまなイベントが世界各地で開催されると思えますが、それは世の中にロータリーを知ってもらうよい機会だと思えます。RI 会長エレクトは、財団100周年を広めるにあたり協力してくれる企業・団体を探しましよう、しかしその仲間というのは同じ立場をもった人を選びましようとしています。同じ立場と言うのは人類のために奉仕したいという気持ちをもった企業・団体で、積極的に手を結んでいましようということです。我々はポリオ撲滅ではビル&メリンダ ゲイツ財団と手をつなぎ大きな力を発揮したので、その方向性をもっと進めようとしているんだと思えます。

またこのポリオ撲滅をした前提の話ですが、その後はどうしましようかと皆さんで考えておきましようという話がありました。ポリオ撲滅を成し遂げた時に備えてクラブの体制をきちんと作りあげてほしいと仰っていました。このクラブの体制では4つほど挙げています。1つは「奉仕に積極的に取り組む体制をつくらう」。これは皆さんが日ごろから実践していると思えます。2つ目は「新会員をあたたく迎えられるような体制をつくっておきましよう」。入会後もきちんとサポートすることが大事なことだと思えます。3つ目は「活気があるたとえば例会の出席、奉仕活動への会員の具各」だと思えます。会員家族がどれだけロータリーに対して理解を示し、親睦例会や夜間例会に積極的に参加してくれるかどうかというは考えていかなければいけない問題でしょう。4つ目は「四つのテストを真に実践しているようなクラブになっ

てほしい」ということです。このようなポイントを達成し素晴らしいクラブを作りあげ、ポリオの撲滅後に備えると言っていますので、これらを進めていきたいと思えます。

これは RI について述べましたが、地区の運営方針は「楽しいロータリークラブを作り上げよう」となっています。「楽しいロータリークラブ」とはムードを良くしていつでも会員が増えたいような魅力のあるクラブにましようということです。ベテランも新会員も垣根なくこれからロータリーをどうしていきたいかということで、次年度、1つめは「夢をもってロータリーを語れるようなクラブができていくこと」をお願いしたいと仰っていました。2つめはインターネットでは情報を受け取るだけでなく、我々もどんどん新しいクラブの情報にロータリークラブ・セントラルに入れて RI に伝達していきましようということです。3つめはロータリー財団設立100周年を記念した行事、寄付増進を計画しましようということです。4つめは、価値観を共有できる新しい会員を入会させながら、RI 会長賞を目指し、会員増強では退会防止に努め維持率100パーセントを達成しましようということです。5つめは地元メディアの協力を得て、ロータリーの存在、ロータリークラブの奉仕活動を地域の方にアピールしましようということです。6つめは1人のロータリアンだけではなく、仲間を増やし、公共団体、企業、NPO 法人などとの連携を検討しましようということです。

地区方針に則りながら、楽しいクラブづくりをしてはじめて奉仕活動ができるのではなからうかと私は思っていますのでまずはクラブの会員同士が仲良くできるのがいいかなと思えます。これらを含めて委員会方針を決めたいと思えます。次年度の卓話では、歴史と伝統のあるクラブでバスト会長が大勢いっしやるので、長年にわたって築きあげたご自身の歴史と経験値をご披露いただき、若い世代の会員になにか刺激が与えられればと思えます。ご自身がロータリーを振り返る1つの機会にもなると思えますので、バスト会長の方々はどうぞよろしく願います。社会奉仕、国際奉仕につきましても皆様方のご協力をいただきたいと思えますのでどうぞよろしく願います。

う気持ちでいられます。ロータリー財団は、1917年6月18日、ジョージア州アトランタ第8回ロータリー大会で当時のアーチ・フランク会長が「世界でよい